

基本方針 京阪グループ第2創業ステージでの挑戦～「創生果敢」～

京阪グループは、創業以来一世紀にわたり育み守ってきた「安全安心」の基盤をさらに強固にすると同時に、人口減少など厳しい経営環境に直面するなかで、創業の精神に立ち返り、社会の変化に機敏に対応して京阪グループ事業の質的向上を図り、過去の延長上から飛躍する新たな第一歩を踏み出す挑戦を続けています。



「BIOSTYLE」京都・四条河原町プロジェクト(イメージ)

「くらしの価値」を高めるコンテンツの創造

鉄道をはじめとするインフラ事業などのコア事業に加え、お客さまの「くらしの価値」を高める新たなコンテンツを創造し、コア事業との相乗効果を高めます。

最重要プロジェクト 「BIOSTYLE」をテーマとしたコンテンツの創造

「健康的で美しくクオリティの高い生活」を実現し、循環型社会に寄与するライフスタイルとして京阪グループが提案する「BIOSTYLE」を「安全安心」に次ぐ新たな京阪ブランドとして確立することを目指してまいります。

「確固たるグループ経営」のスタイル確立

「第2の創業ステージ」における課題に取り組み、成長するにふさわしい経営スタイルを確立します。この実現に向け、平成28年4月に持株会社体制へ移行しました。

持株会社体制のねらい

- 各事業の自立化により、一層の体質強化と意識改革、各事業にマッチした経営スタイルの確立を通じて、競争力の強化を目指す
- 持株会社がリーダーシップを発揮することにより、多岐にわたるグループ事業の横断的戦略の実行、異業種との連携を含む新たなビジネスモデルの創出、重点事業拡大のための経営資源の効率的配分を目指す
- 持株会社による、各種事業用物件の戦略的な取得・開発・保有・売却(流動化を含む)の推進およびグループ保有不動産の最有効活用の促進(グループCRE)により、沿線再耕をはじめ、グループ事業のエリア拡大を目指す



「観光創造」を担う ホテルとレジャー事業

「観光創造」に向けたホテル開発および観光ルートの魅力向上を推進します。また沿線外も含めホテルの多店舗展開に向けた基礎固めとして、既存ホテルのハード・ソフト両面での完成度向上を図ります。



定量目標

投資、財務戦略を踏まえながら、中長期的な視点での沿線再耕を推進するとともに、重点事業の拡大に向け、厳選、精査した戦略的投資を推進し、さらなる利益の上積みを目指していきます。

定量目標	平成29年度	参考	平成29年度
連結営業利益	220億円以上	連結当期純利益	120億円以上
連結EBITDA	410億円以上	連結ROE	6%以上
ネット連結有利子負債/ EBITDA倍率	8.5倍以下	連結ROA	3%以上